



Cache Product Strategy : 2003 & Beyond

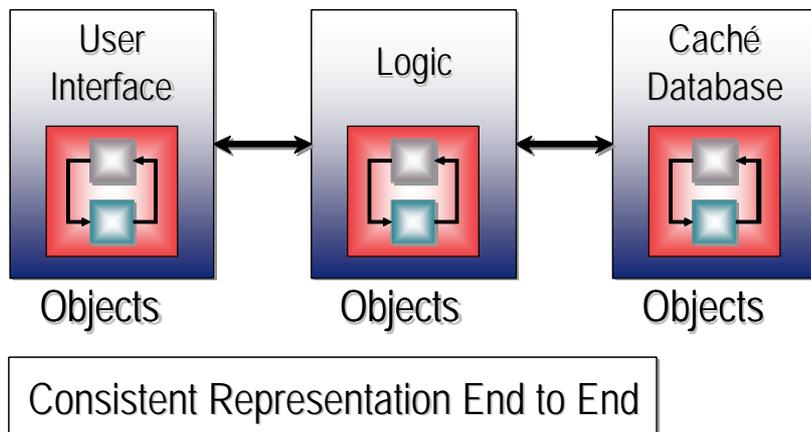
Andreas Dieckow, Principal Product Manager, Strategic Planning
InterSystems Corporation
One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142
Tel: 617-621-0600
Fax: 617-494-1631
Email: andreas@intersystems.com

1. Cache について

Cache は、M の技術を基本に時代の要求に応えるべく開発され、初代製品は 1997 年にリリースされた多次元データ・エンジンを核とするポストリレーショナルデータベースである。M を基本とする独自のスクリプトのほか多くのオブジェクト指向プログラミング言語 (Visual Basic、Delphi、C++、Java など) と SQL を使用することができ、超高速で拡張性の高い開発環境と接続環境を提供する。また、Web アプリケーション等を構築するための迅速な革新的開発テクノロジーも備えている。複雑でミッションクリティカルなアプリケーションを迅速に構築できると、高い信頼性、パフォーマンス、拡張性を開発の注力分野としており、最先端のデータベース管理技術とアプリケーションサーバを提供している。2003 年にリリースされたバージョン 5 では、UI をより使いやすとした開発環境のほか、XML、J2EE、Web サービスなどの最新技術に対応し、また分散ネットワークによるより高い拡張性を実現している。今回は、さらに 2003 年以降の機能拡張や今後の製品の方向性などにつきご説明差し上げたい。

2. 迅速な開発 (Rapid Application Development)

Cache は、UI・ビジネスロジックに合致したデータベースであり、リレーショナルのもつインピーダンスミスマッチを解消し、開発工程がスムーズである。Cache が第一に目指すものは、他のどのデータベースよりも迅速な開発ができるということである。構造そのものに加え、迅速開発のためツールの提供と拡張、進化する最新技術への対応、新しい開発環境の提供などにより、さらなる迅速な開発を実現する。初期開発の 40% の付加工程があるといわれるインピーダンスミスマッチに苦勞するリレーショナル難民を救う。



3. セキュリティ

セキュリティは、今日の最も強い関心事であると同時に、要求である。他のいかなる製品よりも高いセキュリティを目指し、さらにその機能を容易にアプリケーションに組み込みことができることが重要である。また、セキュリティは現実的にはパフォーマンスとのトレードオフの関係にあり、オペレーション上の負荷をいかに減らすかが求められている。そうした要求に応えるセキュリティを提供することを目標としている。Cache のもつ現在そして将来のセキュリティ機能について説明するするとともに、今後注目されるモバイル機器への対応についても触れる。

4. パフォーマンスと拡張性

Cache の特徴は、優れたパフォーマンスと拡張性である。データ構造の違いから保存ディスクスペースが他に比べ著しく少なくすむ。また、Cache 5では、24CPU にまで拡張が可能となったほか、サポートユーザ数も大きく増え、さらに拡張性を拡大した。ECP 技術による分散機能も充実し、顕著なパフォーマンスを出している。

5. さらに

今後も進化続ける Cache だが、機能としての今後の展開は、プラットフォームフリーのブラウザベースシステム管理や、業界でのスタンダード管理ツールへの対応、シャドーイングや ECP の機能拡張など、ユーザや市場・テクノロジーが求める要求に応えていく。